

主題名： だれにでもやさしく（内容項目B-(6) 親切, 思いやり)

教材名：「ぐみの木と小鳥」（「小学どうとく 生きる力2」日本文教出版）

**研究  
主題**

自他ともに大切にする児童生徒の育成  
～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

- 1 学年** 第2学年1組（男子10名 女子11名 計21名）
- 2 ねらい** 小鳥がぐみの実をりすに届けようとしたときの気持ちを考えることを通して、相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすることのよさを感じ、困っている人に温かい心で接しようとする心情を育てる。

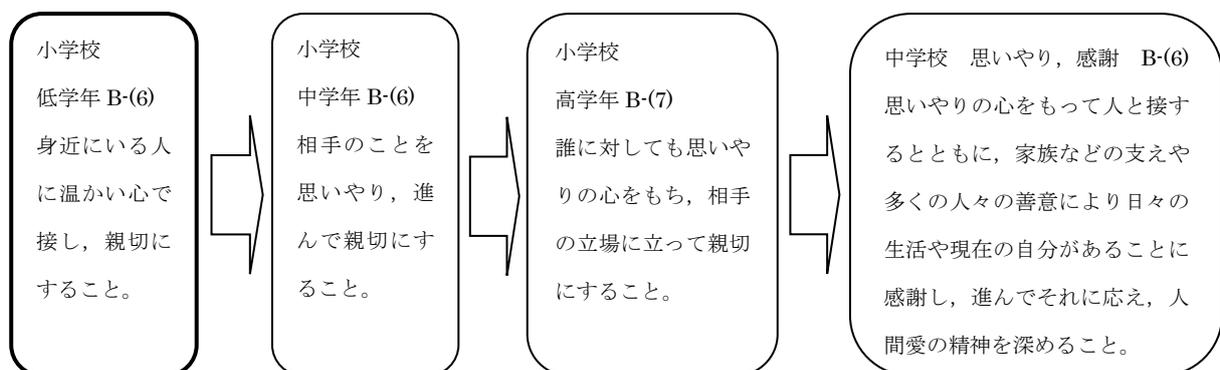
**3 主題設定の理由**

**(1) 主題観**

小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 内容項目 B-6「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に関わる主題を設定した。

思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、望ましい人間関係を構築することはできない。誰に対しても温かい気持ちを持ち、身近に寄り添い、心を尽くしていくことで、よりよい人間関係が築かれ、多くの人と関わりを持ち、自分の人生を豊かにしていくことができる。また、誰かのために行動することで、相手の喜びを引き出すだけでなく、自分の喜びにもつながる。誰に対しても、温かな気持ちを向けるためには、学校の人々や友達などさまざまな人と直接的に多様な関わり合いを持ち、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めていく機会を多く取り入れていくことが大切である。

**【内容項目B 親切, 思いやりに係る各学年の指導目標】**



## (2) 児童生徒観

道徳アンケート（令和元年11月実施）より

質問項目	肯定的回答
人の気持ちがわかる人になりたいと思う	100%
相手のことを思いやり，親切にしている	80%

本学級の児童は，困っている友達がいると，進んで声を掛け，手を貸すことができる児童が多い。日常生活において，ペアやグループで活動する機会を意図的に設定し，互いに思いやる気持ちを育てている。例えば，算数の授業で練習問題を解く際には，「ミニ先生」として教室内を自由に歩き，友達の求めに応じてアドバイスをするという活動を行っている。しかし，自分の都合や気持ちで手伝ったり，手伝わなかったりすることもある。

11月に実施した道徳アンケートによると，「人の気持ちがわかる人になりたいと思う」という項目に肯定的な回答をした児童の割合は100%であり，「相手のことを思いやり，親切にしている」という項目に肯定的な回答をした児童の割合は80%であった。他者への思いやりの心を大切にしたいという思いを持ちながらも，実際には行動に移せていないと感じている児童がいることが分かる。

そこで本時では，自分の都合でなく，身近な人に広く目を向けて，思いやりの心を持ち，親切にすることのよさについて考えさせたい。そして，思いやりの心や親切にすることが相手の喜びだけでなく，自分や周囲の人の喜びにもつながることを理解させ，困っている人に思いやりの心で接しようとする心情を育てたい。

## (3) 指導観

本教材は，ぐみの木に親切にされた小鳥が，友達のりすのことを心配しているぐみの木を見て，何か自分もできないかと行動をすることから始まる。嵐の日，小鳥はりすのところへ行くか行かないか迷うが，葛藤の末，病気のりすやりすを心配するぐみの木を思いやる気持ちから，力をふりしぼってぐみの実を届けに行く内容である。

まず，ぐみの木に助けてもらった小鳥が，ぐみの木の代わりにりすのお見舞いに行く場面では，涙をうかべて喜びすを見て，親切にすることのよさを実感する小鳥の気持ちに共感させたい。次に，やみそうもない嵐の中，小鳥がりすのところへ行くかどうか迷う場面では，迷っている小鳥の思いを考えさせ，その理由を問うことで，りすを思いやる気持ちと嵐で自分が危険な目に遭うかもしれないという気持ちとの間で葛藤する小鳥の思いに気付かせたい。その上で，葛藤しながらも病気のりすやりすを心配するぐみの木のために嵐の中を飛んでいくことを選んだ小鳥の思いについて考えを深めさせたい。最後に，小鳥がやっとの思いでりすのところに着き，「ありがとう。」と言われたり，ぐみの木に「ご親切は，いつまでも忘れません。」と言われたりしたときの小鳥の表情を想像し，気持ちを考えることを通して，思いやりの心や親切にすることが相手の喜びだけでなく，自分や周囲の人の喜びにもつながることに気付かせたい。

指導に当たって，導入では，日々の生活の中で身近な人から親切にされたことについて具体的な場面やそのときの気持ちを想起させ，本時のねらいに対する方向付けを行う。展

開では、場面の状況を分かりやすくするために、場面絵とペープサートを利用する。中心発問においては、嵐の音を聞きながら、小鳥になったつもりで自分の考えをワークシートに書かせる。自分の考えを進んで発表するのが苦手な児童がいるので、ペアトークを行い、友達に自分の考えを聞いてもらったり、友達の考えを聞いたりすることで、安心して自分の考えを発表できる雰囲気を作った上で、全体での話合いにつなげていく。終末では、今日の学習で学んだことや感じたことをもとに「これからどんな心を大切にしていきたいか。」を考え、ワークシートに記述させる。

#### 4 期待する児童生徒の変容

##### Before

- ・他学年や他クラスの友達などの関わり  
の少ない相手には、助けたいと思っ  
ても行動に移せないことがある。
- ・自分の都合や気持ちで手伝ったり、手  
伝わなかったりすることがある。



##### After

- ・親切はされた人が嬉しいだけでなく、  
した人も嬉しくなるんだな。
- ・これまでは、仲のいい友達が困ってい  
たら進んで助けていたけれど、これか  
らは仲のいい友達だけじゃなく、困っ  
ている人がいたらだれでも進んで助け  
たい。

#### 5 本時の展開

##### (1) 準備物

場面絵、小鳥のペープサート、発問短冊、ワークシート  
友達に親切にしている学校生活の写真

##### (2) 学習の展開

学 習 活 動		主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	■指導上の留意点 ☆評価の観点
導 入 3 分	1 普段の生活 体験を振り返 る。	○ 親切にしてもらったことはありますか。その 時、どんな気持ちでしたか。【ひろげる】 ・教科書を忘れたときに、見せてくれてうれし かった。 ・転んだときに「大丈夫。」と言ってくれてうれ しかった。	■ 親切にしてもらっ たとき、どんな気持 ちになったかも、合 わせて想起させる。
展 開 3 5 分	2 教材「ぐみ の木と小鳥」 を読み、話し 合う。 (P132L10 までを読む。)	○ ぐみの木の話聞いて、小鳥がりすのようす を見に行くことにしたのは、どんな気持ちから でしょう。【ひろげる】 ・ぐみの木さんに助けてもらったから、お礼が したい。 ・りすさんのことを心配しているぐみの木さん がかわいそう。	■ ぐみの木の小鳥へ の親切をおさえて おく。

	<p>(P 132 L 11 から最後までを読む。)</p> <p>3 自分の経験を振り返る。</p>	<p>○ りすが、涙をうかべて「だいぶよくなりました。ぐみの木さんによろしくね。」と言ったとき、小鳥はどう思ったでしょう。 【ひろげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・届けに来てよかった。</li> <li>・ぐみの木さんもよろこぶだろう。</li> <li>・りすさんに早く元気になってほしい。</li> <li>・元気になるまで、ぐみの実を運ぼう。</li> </ul> <p>○ 親切にしてもらったりりすはどんな気持ちでしょう。</p> <p>○ いつまでまってもやみそうにない嵐の中で、じっと考えていた小鳥は、どんなことを考えていたでしょう。 【ひろげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りすさんの家に行こうかな、どうしようかな。</li> </ul> <p>○ 行きたいのはどういう気持ちからですか。行きたくないのはどういう気持ちからですか。</p> <p>◎ 行くかどうか迷った小鳥はどんな気持ちで、りすの家に向かったのでしょうか。 【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐみの実を届けたらりすさんが元気になる。</li> <li>・体の具合が悪くて困っているりすさんを助きたい。</li> <li>・りすさんが待っているから、早くぐみの実を届けよう。</li> </ul> <p>○ りすやぐみの木が喜ぶ様子を見て、小鳥はどんな表情になったでしょう。また、どんな気持ちになったでしょう。 【ひろげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大変だったけれど、届けてよかった。</li> <li>・りすさんが元気になってよかった。</li> <li>・りすさんとぐみの木さんが早く会えるといいな。</li> </ul> <p>○ 小鳥と同じようにどうするか迷ったけれど、困っている人のために、親切にできたことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の荷物がたくさんあったけれど、足を怪我した友達の荷物をもってあげた。</li> <li>・友達の消しゴムがなくなったとき、休み時間で遊びたかったけれど、一緒に探してあげた。</li> <li>・友達が喜んでくれて自分も嬉しくなった。</li> </ul>	<p>■ 補助発問でりすの気持ちを問い、親切にされた側も親切をした側も心が温かくなることをおさえておく。</p> <p>■ ペーパーサートを使って小鳥がぐみの木とりすの家を何度も往復したことに気付かせる。</p> <p>■ りすのことを心配しながらも行くかどうか葛藤する小鳥の気持ちに気付かせる。</p> <p>■ 嵐の音をBGMで流し、小鳥になりきって気持ちが書けるようにする。</p> <p>■ ワークシートに考えを書いた児童から、友達とペアトークをさせる。</p> <p>■ 小鳥、りす、ぐみの木の表情について考えることで、親切をすると多くの人が嬉しい気持ちになることに気付かせる。</p> <p>■ 親切をしたとき、どんな気持ちになったかも、合わせて想起させる。</p> <p>■ 日常生活で、児童が進んで親切にしている様子を写真で紹介する。</p>
<p>終末 7分</p>	<p>4 本時の学習をまとめる。</p>	<p>○ 今日の学習で、これから大切にしたいなと思ったのはどんな心ですか。 【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・困っている人がいたら進んで助ける心。</li> <li>・困っている人にやさしくする心。</li> </ul>	<p>■ 板書を振り返り、身近な人に親切にしようという気持ちを高める。</p> <p>☆ 困っている人に温かい心で接することの大切さに気付くことができる。</p>

6 板書計画

親切………した人もうれしい

親切にできたこと

だいぶよくなりました。どうか、ぐみの木さんによろしくね。



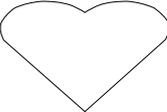
とどけてよかった。ぐみの木さんもよろこぶ。りすさんが元気になるまで、ぐみの実をとどけよう。



助けてもらった。お礼がしたい。ぐみの木さんがかわいそう。



だれにでも やさしく  
ぐみの木と小鳥







友だちのりすさんが、すがたを見せないのです。

わたしのみでよかったです。どうぞおあがりください。

学校生活の  
写真

大変だったけど、とどけてよかった。りすさんとぐみの木さんが早く会えるといいな。

行かなくてもいい。りすさんも来るとは思っていないだろう。行きたくない。自分が大けがをするかもしれない。行きたい。ぐみの実をとどけたらりすさんが元気になる。行かなくや。りすさんを放っておけない。りすさんが待っているから、早くとどけよう。

りすさんのようすを見に行く あらし

主題名：広い心（内容項目B-(9) 相互理解，寛容）

教材名：「折れたタワー」（「小学道徳 生きる力5」日本文教出版）

**研究  
主題**

自他ともに大切に作る児童生徒の育成  
～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

**1 学年** 第5学年1組（男子2名 女子7名 計9名）

**2 ねらい** マスクを忘れてのりおから責められた時のひろしの気持ちと，自分の作品を壊してうつつんでいるのりおの姿を見た時のひろしの気持ちを照らし合わせながら，相手の失敗を許すことの大切さに気付き，互いに理解し合おうとする気持ちを持ち，相手の立場になって広い心で許そうとする心情を養う。

**3 主題設定の理由****(1) 主題観**

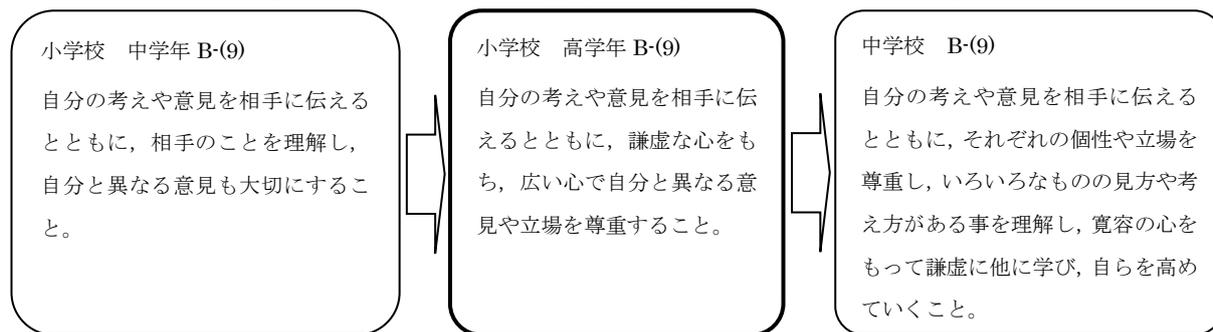
小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳編 内容項目 B-9「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，謙虚な心を持ち，広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」に関わる主題を設定した。

この時期の児童は，自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから，相手のものの見方，考え方との違いをこれまで以上に意識するようになる。そして，自分が正しいと強く思うようになり，相手の失敗や過ちなどをより気にするようになる。そのため，上手く相手とコミュニケーションを取っていく上では，相手の過ちなどに対して，自分にも同様のことがある，またはあるかもしれないという謙虚な心や広い心で受け止め，適切に対処できるようにすることが必要である。

5年生の児童にとっての「相手の失敗を許すことの大切さに気付き，互いに理解し合おうとする気持ち」とは，円滑な人間関係を保っていくために，あらゆる場面において，相手からの意図的な不利益を除き，自分が不利な状況や立場であっても相手を受け入れる寛容さや，自分にも同じように失敗や過ちをすることがあるという謙虚さをもつことであると捉える。

これから様々な人と関わっていく機会が多くなる児童にとって，自分本位に陥りやすい弱さがあることを再認識し，相手を受け入れようとする姿勢が必要だと考える。

## 【内容項目 B 相互理解，寛容に係る各学年の指導目標】



### (2) 児童生徒観

#### 道徳アンケートより

質問項目	肯定的回答
人の気持ちが分かる人になりたいと思う。 (令和元年 11 月実施)	100%
相手のことを許せなかったことはありますか。 (令和元年 12 月実施)	70%

本学級の児童は、はっきりと自分の思いや考えを伝えることができる児童となかなか思った通りに話をすることが難しい児童と二つに分かれる。前者の自分の意見が伝えられる児童は、どのような場面でもどのような相手とでも、自分の気持ちを伝えることにあまり抵抗がない。しかし、自分と違う意見の人に対しては、受け入れ難かったり、相手の失敗を批判してしまったりすることが時々ある。後で落ち着いて考えると、相手の意見を理解したり、気遣った言葉を口にしたりすることもできるが、その場で柔軟に気持ちを切り替えることが難しいようである。

11 月に実施した道徳アンケートによると、「人の気持ちが分かる人になりたいと思う」という項目に肯定的な回答をした児童の割合は、100%であった。しかし、12 月に実施した「友達とのかかわりの中で、相手を許せなかったことはありますか。」という質問に対して、腹が立ったことがある、嫌な気持ちになったというような否定的な回答をした児童が 70%であった。

このことから、児童は、人の気持ちが分かる人になりたいと思っている反面、実際に身をもって不利な立場になってしまうと、自分本位になってしまい相手側のことを考えて許すということが難しいようである。相手の立場を考えたり、自分も同様なことがあることとしての謙虚な心を持ったりする段階にまで至っていない状況である。

### (3) 指導観

本資料は、主人公のひろしがマスクを忘れてしまったため、給食当番で同じ牛乳運びの担当であるのりおから責められるという場面から始まる。その数日後、掃除時間に、のりおがひろしの図工の作品を壊してしまうということが起きるが、最終的にひろしはのりおを許すという内容の話である。

指導に当たって、導入では、「相手の過ちを許すということ」について、一人ずつ課題意識をもつことができるように、事前アンケートで「(友達との間で)相手を許せなかったことがあるか」また、「その時、なぜ許せなかったのか」と理由を聞いた結果について提示する。

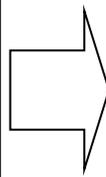
展開前半では、「ごめん。」と謝っても、のりおが許してくれなかったひろしの気持ちを考えることを通して、自分の失敗を必要以上に責められたときに納得がいかないひろしの気持ちに共感できるようにする。その後、のりおがひろしの図工の作品を壊したときの場面の役割演技を取り入れる。その際、ひろしの揺れ動く心を考えやすくするために、のりおのことを「許せない」気持ちと、「やっぱり許そう」という怒りを抑えた気持ちの双方の気持ちに寄り添えるように役割を交代し合う。そして、「のりおのことを許したひろしの気持ち」を主要発問とし、なぜのりおを許すことができたのか、ひろしの謙虚さや寛容な心に気付くことができるようにする。その際、ひろし自身が、のりおからひどいことを言われたことがあるにも関わらず、のりおを許すことができた背景について、自分なりに考えることができるようにするために、まずはひろしの本音である怒りの気持ちを出し合った後、“嫌なことがあったら、その怒りの気持ちをストレートに伝えるだけで良いのか”という揺さぶりをかける。怒りが湧いても、怒りを抑えることや相手を許すことの大切さについて見つめ直すことができるように、ノートに書く時間を設けたり、ペアトークで考えを深めたりする。また、許してもらったのりお側の気持ちも考えることを通して、広い心で受け止めて許してもらえらるる喜びや大切さについて、相手の立場に立って考えを深めることができるのではないかと考える。

終末では、“こういうときには自分ならどうするか”という教材文と同じような具体的な生活場面を提示し、理由を付けて判断する活動を取り入れる。そうすることで、児童一人一人が、相手の過ちなどに対しても「自分にも同じようなことがあるかも」という謙虚さと広い心で受け止めることの大切さについて価値付けられると考える。

#### 4 期待する児童生徒の変容

##### Before

- ・腹を立てて文句を言って怒られるのも嫌だから、許した方がいい。
- ・自分にとって腹が立つことでも、許さないといけない。
- ・許すことによって、なかよしでいられる。



##### After

- ・人の失敗を許すことは、難しいけれど、とても大切なこと。
- ・誰にだって失敗はあるから、相手の気持ちや立場になって考えていこう。

#### 5 本時の展開

##### (1) 準備物

事前アンケートの結果，場面絵，発問短冊，道徳ノート

(2) 学習の展開

学 習 活 動		主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	T1	T2	■指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 5分	1 友達を許した経験について話し合う。	○ これまでの生活の中で、友達を許さなかったことがありますか。 【ひろげる】 ・ドッチビーの試合で、味方の友達がボールを取れなくて、相手に取られてしまって、「ちゃんと取ってや。」と強く言ってしまいました。 ・友達と遊ぶ約束をしていたのに、待ち合わせの場所に行ったら、他の友達と遊ばれていました。	発問 提示	机間 指導	■事前アンケートを提示し、友達との経験を振り返ることで、本時の学習のねらいとする価値について、児童一人一人に課題意識をもつことができるようにする。
展開前段 15分	2 教材文「折れたタワー」を読んで、考え、話し合う。	○「ごめん。」と謝っても、のりおが許してくれそうもなかったとき、ひろしはどんな思いになったでしょう。 【ひろげる】 ・謝ったのにひどいなあ。やっぱり謝らなきゃよかったなあ。 ・忘れた僕がいけなかったけど、謝っているんだから、許してほしいなあ。 ・忘れ物は、誰にだってあることなのに、あんなに怒らなくてもいいのになあ。  ○ じっとうつむいているのりおを見て、ひろしはどんなことを考えていたのでしょうか。【つなげる】 <b>許せない</b> ・一生懸命作った作品だったのに。壊されて、すごく悲しい。 ・あんなに時間をかけて作って褒めてもらったのに。悔しすぎる。 ・前に僕のことをひどく言ったんだから、僕も許したくない。  <b>許す</b> ・壊れてしまったものは、仕方がないなあ。 ・わざと壊した訳ではないからな。許してあげようかなあ。 ・誰にでも間違ったり、失敗したりすることはあるからなあ。	発問 指名  発問 指名  演技	机間 指導  机間 指導	■役割演技をすることで、マスクを忘れて悪かったという気持ちと共に、必要以上に責めるのりおに対して納得がいけないひろしの気持ちを考えることができるようにする。  ■見る側の児童にも、どう感じたか聞き、自分の考えと比べながら見ることができるようにする。  ■双方の気持ちを考えることができるようにするために、許せない気持ち側と許す気持ち側を交代し合って、役割演技を取り入れる。  ■役割演技が進められるように、教師が周りの子の役をする。  ■見る側の児童にも、演技を見た感想を聞くことで、自分の考えと比べながら見るという視点をもつことができるようにする。



6 板書計画

場面絵①

場面絵②

許す

相手の立場を  
考えた気持ち

場面絵①

場面絵②

許さない

許さない

やっぱり許す

あやまったのに許してくれない。

謝っているのにどうして許してくれないの。  
許してほしい。

ひろしのタワーが壊れる

ひろし

牛乳はこび係  
↓マスクを忘れる  
はやし立てられる

おのり

牛乳はこび係  
マスクを忘れたろしを怒る

許す

自分だけのことを  
考えた気持ち

アンケート結果

折れたタワー

- ・ せっかく作った作品を壊されたから。
- ・ 二度と同じ作品は作れない。
- ・ 前にひどいことを言われて許したくない。

やっぱり許す

- ・ 壊されて悲しいけど、わざとじゃないし。
- ・ 壊れたものは、仕方ない。

↓

- ・ やばい。やってしまった。
- ・ 許してほしいけど、きつと怒るだろうな。
- ・ ひろしを責めて悪かったな。





主題名： 誠実な生き方（内容項目 A-(1) 自主，自律，自由と責任）

教材名：「裏庭でのできごと」（「中学道徳 あすを生きる1」日本文教出版）

研究  
主題

自他ともに大切にする児童生徒の育成  
～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

1 学年 第1学年1組（男子16名 女子9名 計25名）

2 ねらい 自分がガラスを割ったことを正直に先生のところへ言いに行く健二の誠実な行動について考えることを通して，自らの行動に責任をもち，誠実に生きようとする実践意欲と態度を育てる。

3 主題設定の理由

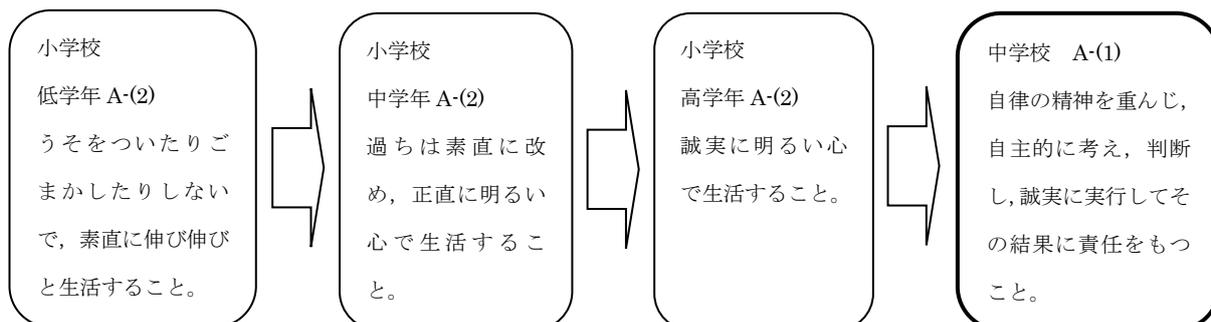
(1) 主題観

中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 内容項目 A-1「自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」に関わる主題を設定した。

この時期の生徒は，何が正しく，何が誤りであるか，ある程度自主的に考え，行動することができるようになってきているが，その反面，悪いと分かっているにもかかわらず誘惑に負けたり，周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されたりしてしまうことも少なくない。また，現代社会に溢れる情報の中から，何が正しく，何が誤りであるかを判断できず，利己的な情報を選ぶことで，自分自身に関わる行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかというのを深く考えることができない面も見られる。

中学1年生の生徒にとっての「誠実な生き方」とは，深く考えずに多数派に流されたり，責任を他人に転嫁したりするのではなく，自分の言動が起こしたその結果に責任をもつことであると捉える。自我に目覚め，自己の確立を遂げようとするこの時期に，善悪について考えること，自分の行為が及ぼす結果について考え，誠実に生きることの大切さを学ぶことが大切だと考える。

【内容項目A 自主，自律，自由と責任に係る各学年の指導目標】



## (2) 児童生徒観

本学級の生徒は、入学して半年以上が経過し学校生活に慣れ、体育祭や文化祭等の学校行事においては、目標の達成に向けて自ら考え行動する姿が見られた。

しかし、学校生活の中で、よく分からないことがあった時に、自分でどうすればよいかを考えず、その場の状況や周りの友人に流されて行動する生徒の姿が見られる。

道徳アンケート（令和元年11月実施）より

質問項目	はい
「自分の失敗をごまかしたり人のせいにしてたりした」経験はある	72%

上記項目に対して「はい」と回答した生徒に次の質問を行った

その経験をした後にどうしましたか	
A 自分から素直にやったことを言った	44%
B ごまかして過ごした	23%
C 自分から言ったわけではないが、バレた	33%

アンケート結果より、「自分の失敗をごまかしたり人のせいにしてたりした」後に、自分がしたことを隠そうとした人が56%と約半数であることが分かる。これは、日常の生活においてもこのような経験を通して、失敗も含めて自己の責任で結果を受け止めることができない生徒の方がやや多い傾向にあることを示している。

## (3) 指導観

本教材は、2度ガラスを割ってしまった中学生三人（すぐに報告に行った雄一、その間に再びガラスを割った健二、先生が来た時にとっさに言い訳をした大輔）による三者三様の判断と行動をめぐる教材である。

この教材が、本時の主題「誠実な生き方」を生徒に考えさせるのに適しているよさは、ガラスが割れたことを正直に先生に言わないと先生に怒られることと、先生に正直に言うことで、友人も怒られることになり、友人関係が崩れるのではないかという2つの不安により、正直に先生のところへガラスを割ったことを言いに行こうか迷う健二の葛藤場面が含まれていることである。

指導に当たっては、次のことに留意したい。

まず、導入では、11月にとったアンケート結果を提示し、クラスの状況を知らせ、そのことで、本時の学習を、自分のこととして捉えやすくさせる。次に、「誠実」という言葉の意味を問い、「誠実な生き方」とはどのような生き方であるか考えていくための動機づけとする。

展開前段では、「裏庭でのできごと」の資料を読み、2度目にガラスを割ってしまった健二と周りの友人の心情を捉えさせる。また、これらのことを自分のことに置き換えてどのような行動をとるのかを考えさせる。

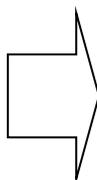
展開後段では、健二が最終的に正直に先生のところへ言いに行く理由を考えることで、誠実な行動とはどのようなことかを考えさせる。

終末では、今回の授業を受けて、誠実に生きることで、どのような良いことがあるかを考えさせることで、自らの行動に責任をもち、誠実に生きようとする実践意欲と態度を育てたい。

#### 4 期待する児童生徒の変容

##### Before

- ・自分が失敗した時に、正直に言いたいけど、怒られるのは嫌だから正直に言えない。
- ・自分が失敗した時に、正直に言いたいけど、友達と気まずくなるから正直に言えない。



##### After

- ・自分が失敗した時に、たとえ怒られたり、その時は友達と気まずくなったりしたとしても、自分の失敗を素直に受け入れ、正直に言うことで気持ちが明るくなる。

#### 5 本時の展開

##### (1) 準備物

事前アンケートの結果，場面絵，発問短冊，道徳ノート，ワークシート

##### (2) 学習の展開

学 習 活 動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	T1	T2	■指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 5分	1 本時の主題に関わる課題意識をもつ。	結果の提示		■課題意識をもたせるために、アンケートを振り返らせる。
	<p>「自分の失敗をごまかしたり、人のせいにした」後にどうしたか。</p> <p>A 自分から素直にやったことを言った。</p> <p>B ごまかして過ごした。</p> <p>C 自分から言ったわけではないが、バレた。</p>			
<p>「誠実な生き方」とはどんな生き方だろう。</p>				
展開 40分		◎「誠実」とはどんな意味だと思いますか。【つなげる】 ・真面目である。 ・うそをつかない。	発問	■本時の主題への方 向付けをするため に、「誠実」の意味 を考えさせる。
	2 教材「裏庭 のできごと」を読み、 話し合う。 (P150L15 までを読む。)	◎ 2枚目のガラスを割った後、 あなたが健司なら、すぐに先生	掲示 板書  発問	■3人それぞれの考 え方を捉えさせる ために、3人それ ぞれの発言内容を掲 示する。  ■中心発問につなげ るために、2枚目の

	<p>(P 150 L 16 から最後までを読む。)</p>	<p>に謝りに行きますか。行きませんか。それはなぜですか。 【ひろげる】</p> <p>報告に行く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言わないとバレた時が大変だから。</li> <li>・罪悪感が残るから。</li> <li>・雄一のせいになるから。</li> </ul> <p>報告に行かない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒られるから。</li> <li>・罪悪感はあると言わないとバレないかもしれないから。</li> <li>○ みんなも同じ気持ちになることはないですか。</li> <li>○ 健二は、どうしてその日のうちに先生に報告に行かなかったのだろう。</li> <li>◎ 一旦は丸く収まったのに、なぜ健二はやっぱり先生のところへ謝りに行ったのだろうか。 【深める】</li> <li>・黙っているのは気持ちがすっきりしないから。</li> <li>・大輔に嫌がられるかもしれないが、このままでは嫌だから。</li> <li>○ なぜすっきりしないの？</li> <li>○ 正直に謝りに行ったら、大輔と気まづくならないだろうか。</li> <li>○ 謝りに行くことで、先生には怒られないだろうか。</li> <li>○ どうして、先生に怒られたり気まづくなったりするかもしれないのに、正直に言いに行くのですか。</li> </ul>	<p>机間指導 板書</p> <p>発問 机間指導 指名</p>	<p>机間指導 指名</p> <p>机間指導 指名</p>	<p>ガラスを割った直後の健二の心情に共感させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行くか、行かないかで迷っている生徒の意見を問う。</li> <li>■ 自分の考えを明確にするために、ネームプレートを黒板に貼らせる。</li> <li>■ 導入でのアンケートを生かすために、導入で提示したアンケートへ立ち返る。</li> <li>■ 多面的・多角的に考えさせるために、自分の考えを道徳ノートに書かせた後、各班で考えを交流させ、考えをホワイトボードにまとめさせる。</li> <li>■ 多面的・多角的に考えさせるために各班の考えを発表させる。</li> </ul>
<p>終末 5分</p>	<p>3 授業の振り返りを書き、学級で交流する。</p>	<p>○ 誠実に生きることで、どんな良いことがあるだろう。 【つなげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがすっきりする。</li> <li>・友達から信頼されて周りとの関係がよくなる。</li> <li>・自分の嘘によって人から嫌われるのではないか、という不安な気持ちがなくなる。</li> </ul>	<p>発問 机間指導 指名</p>	<p>机間指導 板書</p>	<p>☆自らの行動に責任をもち、誠実に生きようとするのができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新しい考え方に気付かせるために、振り返りを発表させる。</li> </ul>

## 6 板書計画

・ 気持ちが悪くすっきりする。

・ 友達から信頼されて周りとの関係がよくなる。

・ 自分の嘘によって人から嫌われるのではないか、という不安な気持ちがなくなる。

誠実に生きること、どんな良いことがあるだろう。

一旦は丸く収まったのに、なぜ健二はやっぱり先生のところへ正直に行ったのだろうか。

裏庭でのできごと

1 班

2 班

3 班

4 班

5 班

理由

報告に行く	
	報告に行かない

健二の特徴

大輔の特徴

雄一の特徴



けんじ  
健二



だいきほ  
大輔



ゆういち  
雄一

主題名：人の思いやりへの感謝（内容項目 B-(6) 思いやり，感謝）

教材名：「夜のくだもの屋」（「中学道徳 あすを生きる2」日本文教出版）

研究  
主題

自他ともに大切にする児童生徒の育成  
～小中9年間を見通した道徳科の授業づくりと評価を通して～

1 学年 第2学年1組（男子14名 女子17名 計31名）

2 ねらい 暗い夜道を1人で帰る少女を心配して夜遅くまで店の灯りをつけていたくだもの屋さんの夫婦の思いやりについて考えることを通して、見えないところで支えてくれている人がいることに気づき、思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えようとする実践意欲と態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) 主題観

中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 内容項目 B-6「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。」に関わる主題を設定した。

この時期の生徒は、人間愛に基づく他者との関わりをもつことの大切さを理解することができるようになってくる。しかし、自立心の強まりとともに、利己的になりやすく、他を省みない行動に走ることも少なくない。その中で、思いやりの大切さを再確認したり、自分も他者もかけがえのない存在であるということを実感したりすることが大切である。

中学2年生の生徒にとっての「思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えようとする実践意欲と態度」とは、他者の思いやりや感謝の気持ちに気づき、そのありがたさを感じ、素直に受け止め表現しようとすることであると捉える。そのために、まずは他者の思いやりや感謝の気持ちに気づかせることが大切だと考える。

【内容項目 B 思いやり，感謝に係る各学年の指導目標】

小学校 中学年 B-(7)

相手のことを思いやり，進んで親切にすること。

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に，尊敬と感謝の気持ちを持って接すること。

小学校 高学年 B-(7)

誰に対しても思いやりの心を持ち，相手の立場に立って親切にすること。日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し，それに応えること。

中学校 B-(6)

思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること。

## (2) 児童生徒観

道徳アンケート（令和元年 11 月実施）より

質問項目	肯定的回答
他者を思いやることは大切なことである	100%
感謝の気持ちを持つことは大切である	100%
相手のことを思いやり、親切にしている	100%
自分には、自分を支えてくれている人がいる	100%
自分を支えてくれている人に対する感謝の気持ちを持っている	95%
自分を支えてくれている人を疎ましく感じることもある	42%
感謝の気持ちを素直に言葉や行動で伝えることができている	67%

本学級の生徒は、学校生活においても、前向きに一生懸命取り組もうとしている生徒が多い。学校の主軸として、様々な行事に意欲的に取り組むことができている。クラスの雰囲気も明るい。一方で、他者への配慮に欠いた言動をとる姿も見られる。特に友人関係において、感情面が先にたち、友人の立場や気持ちを考えることができない生徒も見られる。

令和元年 11 月に実施した道徳アンケートによると、本学級の生徒は、思いやりや感謝の気持ちをもつことが大切であることに気が付いている。また、自分を支えてくれている人の存在にも気がつき、感謝の気持ちを持つこともできている。しかし、自分を身近で支えてくれる人を疎ましく感じたり、思いやりや感謝の気持ちを表現することに課題があることが分かった。このことから、自分の存在に深く関わることになると言葉や行動としてうまく思いやりや感謝の気持ちを表現することができない生徒が多いと考えられる。

## (3) 指導観

本教材は、合唱部の練習後、暗い夜道を一人で下校する主人公の少女を心配し、少女が通り過ぎるまで店をあけてくれるくだもの屋のお婆さんの、温かな思いやりが感じられる教材である。くだもの屋のお婆さんが歌う合唱曲を通して、店の明かりが自分のためであったことに少女は気づき、驚きとともに感謝の気持ちを抱くようになる。生徒が、本教材のように偶然、重荷にならないように配慮された思いやりに気付く経験をしたり、本時を通して気付くことができるとは考えにくい。そこで、見えない思いやりについて考えを巡らせることで、本学級の生徒が「見えないところで支えてくれている人がいることに気付く」きっかけとしたい。

まず、導入で具体的な事例を通して、本時の主題を提示する。

展開前段では、教材のあらすじを確認する。教材の長さ、生徒の実態を考慮し、教材は事前に生徒が読む時間を確保する。また、人物が思いやりに触れた時の心情をわかりやすくするために、場面絵とイラストを利用する。

展開後段では、中心発問において、くだもの屋のあかりだけが持つあたたかさについて考えることを通して、少女が受けた思いやりに気付かせる。少女がくだもの屋さんのあかりが自分のためのあかりだったこと、お婆さんの温かい思いやりを受けていたことを確認

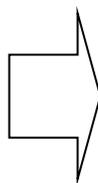
することで、たくさんの方の思いやりによって、自分たちが支えられていることに気付かせる。同時に、自分の身近にある気付けていない思いやりについて考え、思いやりに気付く難しさも共有したい。

終末では、今日の学習で学んだことや感じたことをもとに人の思いやりに気付くには何が大切であるかについて考えを巡らせたい。

#### 4 期待する児童生徒の変容

##### Before

- ・身近な人以外から、どんな思いやりを受けているのかわからない。
- ・思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えることは恥ずかしい
- ・言葉にしなくても、伝わると思う。



##### After

- ・様々な人の思いやりの心によって、自分は支えられていることを知った。
- ・思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようと思った。

#### 5 本時の展開

##### (1) 準備物

場面絵，発問短冊，道徳ノート

##### (2) 学習の展開

学 習 活 動		主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	T1	T2	■指導上の留意点 ☆評価の観点
導入 5分	1 日常の中にある思いやりについて振り返る。	○ 画像をみてください。揃えられたスリッパをみると、どんな気持ちになりますか。【ひろげる】 ・きれいでいいな。 ・使いやすそうだな。 ・ほっとする。  ○ どうして、みなさんはスリッパを揃えていますか。 ・次の人がはきやすいから。	発問	画像の提示	■さりげないおもいやりについて考えさせることで、本時の主題への方向付けとする。  ■本時の主題を示すことで、学習の構えをつくる。
	2 教材「夜のくだもの屋」のあらすじを確認し、思いやりについて考える。	○ 一人で暗い夜道を歩いた経験はありますか。【ひろげる】 ・ある。 ・12月から下校時間のとき真っ暗になる。  ○ くだもの屋のあかりを見たときの少女は、どんな気持ちだっただろう。【つなぐ】 ・ほっとした。 ・安心して帰れる。	発問 机間指導	範読 机間指導	■暗い夜道を一人で歩く心細さを想像させる。  ■くだもの屋のあかりの温かさに気づかせるために、場面絵を提示する。

		<p>◎「この店のあかりがあんなにあなたかく見えた」のはなぜだろう。 【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あかりは、自分のためのあかりだったから。</li> <li>・私たちのためにつけてくれたことを知ったから。</li> </ul> <p>○ おばさんは、なぜ少女のためにあかりをつけていることを少女に伝えなかったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えるまでもないから。</li> <li>・見返りを求めているから。</li> </ul> <p>○ みんなの身近にある、実は気付いていない思いやりにはどんなことがあるでしょう。【ひろげる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんが、寒い日は、水筒にあったかい飲み物をいれてくれている。</li> <li>・友だちが悩み事がある時に、相談にのってくれたり、見守ってくれる。</li> </ul>	<p>発問 机間指導</p> <p>発問 指名</p> <p>発問</p>	<p>板書 机間指導</p> <p>板書</p> <p>板書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 思いやり気付いた少女の気持ちに焦点化する。 ※道徳ノートの記述により評価を行う。</li> <li>■ 自分の考えを広げたり、深めたりするために、個人思考後、班で考えを交流させる。</li> <li>■ 何の代償を求めないものであることに気付かせる。</li> <li>■ 気付いていなかった思いやりについて考えることを通して、思いやり気付く難しさを体感させる。</li> <li>■ 具体的な気付きに対して感謝を伝えようと思うような言葉がけをする。</li> </ul>
終末5分	3 振り返りをする。	<p>○ 人の思いやり気付くには何が大切だろう。【深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のことばかりではなく、相手の気持ちを考える</li> <li>・周りをよく観察する。</li> <li>・日々の振り返りの時間を大切に</li> </ul>	<p>発問 机間指導 指名</p>	<p>机間指導 板書</p>	<p>☆思いやりや、感謝の気持ちを伝える大切さに気付くことができたか。</p>

## 6 板書計画

<p>○人の思いやり気付くには何が大切だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考えること。</li> <li>・周りをよく観察すること。</li> <li>・日々の振り返りの時間を大切に</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>地域の方</td> <td>親</td> <td>友だち</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	地域の方	親	友だち	その他			<p>○あんなにあなたかく見えた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おばさんの思いやり感動した。</li> <li>・自分のためのあかりだと知った。</li> </ul> <p>○気付いていなかった思いやり</p>		<p>○くだもの屋のあかりを見て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとした。</li> <li>・安心して帰れる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>揃えられたスリッパの画像 (美化委員会の取り組み)</p> </div>	<p>夜のくだもの屋</p> <p>思いやり・感謝</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きれいでいいな。</li> <li>・ほっとする。</li> <li>・使いやすそうだな。</li> </ul>
地域の方	親	友だち										
その他												